藤井由美子氏追悼

朝霞市の環境活動のパイオニアでありトップランナーでもあった藤井由美子さんが昨年 11 月に 80 歳で亡くなられました事をご報告いたします。

8 月第一火曜日の定例会の後に斜面林へ様子を見に行き、ミョウガの収穫を一緒にしました。今年は身が縮まっています。活動もお休みして夏バテしたのかと思っていましたが、この時が最後になってしまいました。

私達の活動は湧水のある斜面林 3 カ所で行っています。参加は 10~15 名です。ベテランばかりなので各々が下草刈りや枯れ枝処理、タケの伐採など手慣れた動きでこなしてゆきます。藤井さんは、その間に、季節のものを採ってくれていました。フキノトウ、三つ葉、木の芽、ミョウガなど。また、活動時の休憩にお菓子と飲み物の用意をしてくれていました。私は熱いお湯でドリップコーヒーが楽しみでした。コロナ禍前には、お汁粉をご馳走して頂いたのも懐かしく思い出されます。

藤井由美子さんのプロフィール・活動を紹介します。

昭和 17 年 1 月 27 日生まれ

東京都杉並区の岡野家長女として誕生

父親の勤務地・秋田県益田町(現横手市)吉野の鉾山社宅にて、釣りキチ三平のすむ野山で育った山村の中学時代、2 年先輩に漫画家矢口高雄がおり、同氏とは 2020 年に亡くなるまで生涯、親交があった横手城南高校卒業

昭和 35 年明治大学入学

学生運動を経験、英語、ロシア文学を愛好

鈴木伸一、石ノ森章太郎、藤子不二雄らが設立したスタジオゼロでアニメーターとして勤務
お化けの Q 太郎のセル画などを担当

結婚して二男一女を授かる

実家にて私塾運営、朝霞でも学習塾経営。川やゴミの問題、斜面林の保全に活躍

1990 年代 市内の地下水調査、湧水・地下水等水面図作成

1994 年 朝霞で身近な川の一斉調査開始 1996 年から新河岸川水環境連絡会設立に参加

1995 年 荒川流域ネットワークに調査を伝授、以降埼玉県西部地域は、同調査の全国的拠点となり、現在に至る

1995 年 黒目川朝霞地区で川まつり開始

1999 年 黒目川改修工事の説明会開催要請署名 1200 筆を埼玉県新河岸川総合治水事務所へ提出
島谷幸広氏(当時建設省土木研究所)を黒目川に招き学習会

1999 年新河岸川水系水環境連絡会に矢口高雄氏を招き講演

2000 年 3 月 黒目川改修計画策定委員就任、2007 年まで改修工事に携わる

2001 年? 朝霞台駅前ハケの山、開発反対運動。

その後、2002.3 月に 25000 m²がマンション開発された

2003 年 朝霞環境フォーラム設立準備委員会委員就任。後の「あさか環境市民会議」になる

2011 年度 黒目川改修工事が土木学会景観デザイン賞受賞

2012 年 2 月 行政・コンサルと共に市民団体・黒目川に親しむ会として受賞

2012 年 第 5 回いい川・いい川づくりワークショップグランプリ受賞「子供の遊ぶ活動は、川の浄化につながるで賞」受賞

1999 年 9 月から毎月黒目川公開魚類調査実施

2006年から朝霞本町商店会が「街中水族館」開設。水族館に黒目川の魚の提供を始め、現在に至る。2000年朝霞市立第一小学校から、黒目川教室開催の依頼を受け、以降毎年5~6校の幼稚園・小中学校・専門学校からの教室依頼に応え、校内や黒目川で実施、現在に至るまで継続

埼玉県生態系保護協会会員

生活クラブ生協埼玉・森と水の実行委員会 委員

あさか環境市民会議 会長

朝霞の森運営委員会 委員

黒目川に親しむ会

黒目川の景観を考える会

新河岸川水系水環境連絡会 等の役員を務める

朝霞の現在

黒目川は住宅地を流れる川です。市内の区間は堤防もフェンスもほぼありません。子ども達が泳ぎ、夏にはアユ目当ての釣り人で賑わいます。

標高10m未満で泳げる川は埼玉県内でも少ないのではないのでしょうか？武蔵野台地を流れて新河岸川に注いでいますが、台地のへりには湧水も多く透明度の高い流れとなっています。

1999年に駅前での1200筆の街頭署名で説明会を行政に開催させ黒目川改修策定委員会を設立させ委員に就任。行政と市民の協働の元になる「あさか環境市民会議」を設立し、特別保全緑地の斜面林の保全活動を実施。現在の環境活動の大きな礎になっている事に気がつかされました。

私は市境の越戸川で美化活動を行っていましたが、藤井さんの開催している自然観察会『黒目川エコ探検』に参加して自然の素晴らしさを再認識しました。そして、‘もっと知りたい’の思いから協会のカレッジ受講をし、一緒に活動をはじめました。

藤井さんの活動を振り返ると全て水に繋がってゆきます。

東京・杉並生まれと聞いていましたが、中学、高校時代は秋田で過ごしたそうです。

あの『釣りキチ三平』の矢口高雄氏は2年先輩で矢口氏が亡くなるまで生涯、親交が続いたそうです。

青春時代を過ごした時の川の風景がずっと心にあっただのでしょうか。

長女の方は、

「多くの方々の声に耳を傾け、心の窓口になる。自分の子供も、よその子供も自分の子供だと言って、分け隔てなくかわいがり、子供たちの未来のため、いいところで育てたい、朝霞の自然も守って、住みやすいところになりたいと願って活動して来られました。」とお話していました。

藤井さんの30年に及ぶ活動を振り返り、朝霞の自然の素晴らしさを再認識し、活動への想いを感じました。のコロナ禍で活動や観察会を会員に限定していましたが、朝霞に住んでいる多くの人と自然を楽しみ、将来に残したいと思います。

小林一巳氏談

1999年がターニングポイントでした。改修工事で失われる黒目川の自然を守るために、藤井さんはあらゆる手を使いました。改修工事の市民説明など無い時代に、説明会開催要請署名を集めました。朝霞台駅頭での街頭署名、生活クラブでの会員署名、新河岸川水系市民団体の団体署名、県出先の新河岸総合事務所への申し入れ、多自然川づくりの専門家・島谷さんの招聘など。市議会議員になるおまけまで付いてました。

島谷さんへの手紙では「堤防が高くなるのは仕方ないが、川の流れは今ままで改修できないか」と希望し、それがスライドタウン工法採用につながりました。島谷さんは、高い堤防設計が、洪水リスクを高めることを見抜き、建設省から、埼玉県に変更の要請が来て、高い堤防は取り止めになりました。高い堤防のために買収した用地は無用となり、用地買収に奔走していた県は憤慨しました。

自然蛇行の黒目川は生き残り、コンクリートをはがしまくった多自然川づくり、広くて浅くてゆったりした川は、魚の天国となり、魚を求めて子供も、おとなも群がり、川遊びの人が、釣り人が、商工会が、景観重点地域までもが集いました。改修工事から15年、土木学会景観デザイン賞、いい川いい川づくりWSグランプリと、黒目川は、日本一のいい川になりました。藤井さんは、自然な川を守り作る信念を貫き通しました。皆がそれに巻き込まれて、今日まで来ました。藤井さんは1999年当時の資料一切をバックに詰め、走る倉庫のマイカーに乗せていました。亡くなった後、車の中から出て来ました。藤井さんが最も大切にしていた資料です。

私から藤井さんへの手紙

藤井さんに11月にメールをしたが返事が来なかった。

一部修正と加筆して2022.12月 岡での紅葉観察会で会員の皆様へお渡ししたものを。

藤井様

ご逝去を悼み謹んでお悔やみ申し上げます。

最後にお会いしたのは8月の火曜日、リサイクルプラザでの会が終わり、まさにこの場所でした。岡の斜面林の様子を見に来ました。ミョウガがたくさん蕾をつけていて田中さんと3人で収穫しましたね。元気なお姿が思い出されます。

私は以前から藤井さんの事は存じ上げていましたが、会の催しに参加して初めてお会いしたのが『黒目川エコ探検』（さいかち窪の源流点からスタート）でした。

もう4、5年前でしょうか？

以前から、あさか環境市民会議の里山保全活動には興味があったのですが、いきなり参加はハードルが高くエコ探検に参加しました。

私は草花や鳥は好きですが、観察と言うよりは散歩して眺めていたのですが、

初めてエコ探検に参加して藤井さんの説明を聞きながら歩くと今までのちょっとした疑問やへえー！と、思えることがたくさんありました。

その中で、環境に興味を持ち、埼玉県生態系保護協会の環境カレッジを受講して根岸台の保全活動に参加するようになりました。

観察に興味を持って春日部支部の観察会にも参加していたら、支部長の三好さんから藤井さんの事や黒目川にい

ったことあるよ♪等のお話も聞きました。

私は勝手にですが、藤井さんにすごく縁を感じています！！

その後、川沿いの探索にとっても魅力を感じて、一人で落合川の源流点にいたり、黒目川沿いをサイクリングしたり四季に渡り散策しています。

今年の春には落合川でミクリ発見しました。希少植物があるとは聞いていましたがミクリだったんだぁ！と驚きです。

そのほか、カワセミの営巣地も見つけました。そこで、長い時間眺めていたら地元で管理している人にお会いして、営巣地をへビから守っているお話も聞きました。

川沿いの豊かな自然は本当に変化に富んでいて楽しいですね。

私の自転車には南沢氷川神社のお守りが貼ってあるんですよ♪

今回のエコ探検は一緒にゆけませんでしたが、次回はご一緒にと考えていました。

しかし、叶わなくなりました。

私たちの活動を見守ってください。ずっと気持ちは一緒にあります。

巡り会えた事を幸せに思っています。ありがとうございました。

在りし日の元気なお姿が目浮かんでおります。

さようなら。

松永健司